

気候変動解決に貢献するメディアを表彰する【Media is Hope AWARD 2025】
テレビ・ラジオ・新聞・漫画・コンテンツクリエイター、12組の受賞理由を発表！
～4/16(木)13:00から気候変動メディアシンポジウム@国連大学で表彰式を行います！～



Media is Hope AWARDとは、気候変動やSDGsといった社会課題解決へ貢献するメディア/ジャーナリスト/コンテンツの功績を讃える賞で、一般社団法人Media is Hopeからお贈りする賞です。

2026/4/16(木)13:00~16:00「気候変動メディアシンポジウム2026」@国連大学にて表彰式を開催します。気候変動に関する先進的な報道、工夫が凝らされたコンテンツ、メディアの取組みを受賞者の皆さまにご紹介いただきます。シンポジウムに参加して気候変動解決に尽力するメディア関係者を一緒にお祝いしましょう。▶[気候変動メディアシンポジウム2026 リリース \(PR TIMES\)](#)

【Media is Hope AWARD 2025 下半期・年間 受賞者一覧】

<2025年 下半期>

個人賞：WoWキツネザル氏

媒体賞：NHK報道局

<2025年 年間>

個人賞：日本経済新聞社 安藤淳氏

媒体賞：毎日新聞社、テレビ東京

ソーシャルメディア賞：黒部睦氏

作品賞：「青の王国 BlueNation年代記」(しおだまりん氏)

データビジュアライズ賞：「温暖化する地球を見下ろす 気候変動の15の陰影」(中日新聞社)

シリーズ賞：「いま、地球がアツい！」(ニッポン放送)

「気候危機にメディアはどう向き合うべきか」(NHK放送文化研究所)

地域メディア賞：福岡放送

ソリューション賞：読売新聞社

↓↓受賞理由は次ページ↓↓

一般社団法人Media is Hopeは気候変動を解決できる社会を実現するために、気候変動報道強化に繋がるさまざまなサポートを行う団体。メディアや市民、企業やあらゆるステークホルダーが共創関係を築く架け橋となる活動をしています。メディアの中で気候変動やSDGsといった社会課題を扱い続けることは簡単なことではありません。私たちMedia is Hopeは視聴者 / 読者という立場など、メディアではない人たちが課題に尽力するメディアやジャーナリストを応援していく必要があると考え活動しており、この賞もその一環です。

問題だけでなく解決策にも焦点を当てるソリューションジャーナリズム、オーディエンスとの対話や協力を通して課題解決するエンゲージドジャーナリズムといった気候変動解決に資する報道や、メディア自身の取り組みを表彰することで、その価値を発信しています。

Media is Hope AWARD 2025 下半期【表彰理由】

<2025 下半期 個人賞：WoWキツネザル氏>

環境問題や生物多様性など「難しいけれど大切なこと」をわかりやすく、楽しく伝えるエンターテイナー。丁寧にファクトチェックを重ねた発信で、誤情報拡散に対する注意喚起にも注力されています。「[クマの被害が増えたのはメガソーラーのせい？](#)」「[AIは環境破壊？](#)」などのショート動画ではどんな言説も否定せず受け止め、論文や研究をもとに紐解く。「[メガソーラーの誤解](#)」はX上でインプレッション39万、YouTube再生20万回を超えた。トレンドへの俊敏な反応が拡散に繋がる現代に「怒りや不安を感じる時こそ慎重に」と優しく視聴者に語りかける。その姿勢で多くの信頼が集まり、SNS時代に求められる発信を体現しており、情報が氾濫する社会での助け舟となっている。[\(WoWキツネザル氏公式サイト\)](#)

<2025 下半期 媒体賞：NHK報道局>

気候変動や誤情報について綿密な取材に基づいた報道をされています。「なぜ誤情報が拡散されるのか」というSNS社会の構造にまで踏み込み、読者の情報リテラシー向上に貢献。「[メガソーラーが猛暑や大雨被害に影響？](#)」「[クマに関するフェイク拡散](#)」ではネット上の誤情報の拡散状況を示し、専門家への取材やデータをもとに事実を検証。「[温暖化なのに大雪？](#)」では気候変動と豪雪の関係を現地取材と図解で解説、「[北海道で熱中症が急増](#)」では6名以上の記者が協働・地方局とも連携するなど、NHKだからこそ可能な多層的な取材体制で、信頼されるメディアの形を示す。マスメディアによる報道の真価は、フェイクが氾濫する今だからこそ発揮されるのではないか。[\(フェイク対策ニュース一覧\)](#)

Media is Hope AWARD 2025 年間【表彰理由】

<2025 年間 個人賞：日本経済新聞社 安藤淳氏>

気象予報士の資格を持つ編集委員として気候変動問題への意識の向上や、対策推進を促す記事を執筆されています。「[世界でも突出、予想を超えた日本の暑さ](#)」では猛暑と気候変動の関連性を読み解き、「[猛暑や豪雨が鳴らす警鐘、温暖化の影響に意識向けよ](#)」では温暖化の「対症療法」の限界を指摘。自身の連載「[ウェザープラス](#)」でも天気と気候変動の関係を度々解説。新聞に限らず、映像メディアでの解説にも出演。「[COP30開幕、崖っぷちの『1.5度目標』救えるか](#)」では「希望を捨てるのはまだ早い」と展望も示す。記者としての長年の経験と気象の専門性を掛け合わせた発信は現実の厳しさを伝えながらも希望を手放さず、多くの読者に行動の必要性を呼びかけている。[\(安藤淳氏の記事一覧\)](#)

<2025 年間 媒体賞：毎日新聞社>

気候変動に関する複数の連載があり、多角的な視点で深く丁寧に報道を続けてこられました。「[テラ・クライシス](#)」第一部「[気候変動と国家](#)」では、外交や国家間の力学といった背景まで掘り下げ、国際社会の秩

序が揺らく現代の気候変動問題を捉える。他方で「[夏の風物詩に異変](#)」「[暑すぎて部活は無理](#)」といった記事では、気候変動が日常や文化を静かに侵食する現実を、生活者の視点で伝える。さらに「[毎日小学生新聞](#)」などの次世代への発信でも気候変動問題を扱う。様々な層に合わせた発信でどんな分野にも気候変動の影響が及ぶことを示し、気候リテラシー向上に繋がっている。気候変動問題の現状と解決策が社会の共通認識になる一翼を担うメディアの尽力に感謝したい。（[「気候変動」記事一覧](#)）

<2025 年間 媒体賞：テレビ東京>

番組での発信に加え脱炭素対策も積極的に実践し、再現性ある気候変動対策を提示されています。テレ東「[ウミモリ活動](#)」では、企業や自治体の奮闘を取材した特番『[Blue Dream（ブルードリーム）](#)』を2回放送。藻場再生やJブルークレジット購入など、テレビ局の枠を超えた環境保全の社会実装にチャレンジしています。キー局初のネイチャーポジティブ特集『[ネイチャートラベラー](#)』や『[ガイアの夜明け](#)』でも温暖化の現状、解決に向けた取組みを継続的に発信。テレビ番組『[東京湾のごみ全部ひろう大作戦](#)』では視聴者の反響を受け続編を制作するなど、視聴者とのエンゲージの強い関係性を実現。テレビ局の広く伝える力と本質的な実践が重なる時、その影響は計り知れません。

<ソーシャルメディア賞：黒部睦氏>

アートとアクティビズムを融合させた「アーティビズム」を実践し、表現の力で気候変動解決へのアクションを促す存在です。市民の発信を支える報道メディア「8bitNews」でのレポーターも務め、「[交渉の裏で何が起きている？Artivist黒部睦が伝える“もう一つのCOP30”](#)」では、2週間のCOP滞在で38本の市民アクションを取材。[韓国気候正義デモ取材](#)では参加者のプラカード100枚を翻訳し、その想いを届けました。黒部氏のカメラは一貫して「市民」に向いており、その体温が感じられる発信は、「世界中で声を上げる人がいる」という勇気と気付きを届ける。「誰でも声を上げていい」そんな空気をつくり出す発信は、気候変動を解決に導く連携の輪を確実に広げている。（[黒部睦氏のInstagram](#)）

<作品賞：青の王国 BlueNation年代記>

地球誕生から生物の進化、そして現代の気候変動へー壮大なスケールで地球の歴史を描いた漫画作品。ネイチャーポジティブなどの取組みも凶解で丁寧に解説され、読者の意識を課題解決へと導きます。何十億年もの生命史は人間が誕生してからの時間の短さ、その間に壊してきたものの大きさを突きつける。一方、海洋研究者や気候ジャーナリスト、地域開発の担当者など立場も視点も異なる人間たちが環境問題を通じて自然に交わる姿は、対立ではなく共生の可能性を示す。「我らが命を繋いで、今の君たちがいる」という古代生物からのメッセージとともに、人間も大きな循環の中で生きていると思わせてくれる本作品は、地球上の無数の生物の声を代弁している。（[「青の王国 BlueNation年代記」公式サイト](#)）

<データビジュアライズ賞：中日新聞社 温暖化する地球を見下ろす 気候変動の15の陰影>

海洋熱波、氷河融解、熱波による死亡者数など温暖化に関する多様な情報をグラフィック上の地球に投影した記事。温暖化の全体像をダイナミックに捉え、直感的に理解を深めることに貢献されています。CO₂の大気移動のシミュレーションが印象的で、排出する国と影響を受ける国の非対称性を一目で理解できる。干ばつによるオレンジの価格の高騰、水不足による紛争激化のリスクにも触れており、記事を読み進めるにつれ暮らしと温暖化が結びつく。圧倒的な調査とビジュアルに製作者の尽力が滲み出る本記事は、気候変動報道におけるデータジャーナリズムのお手本であり、「データを体感する」新しい体験。科学館の展示のような没入感を多くの人に味わって欲しい。（[記事本編](#)）

<シリーズ賞：ニッポン放送 いま、地球がアツい！>

「みんなのアツい！」をテーマに、気候変動の影響を受ける多様な現場の声を拾い、課題解決をリスナーとともに考えるラジオ番組。[農家](#)、[水産業者](#)、[オリンピック選手](#)...ゲストが直面する現状が肉声で語られるラジオならではの親近感で、気候変動を遠い話ではなく、日常のすぐ隣に迫る問題として受け取りやすい番組づくりをされています。猛暑の時期にはスタジオを飛び出して[砂浜](#)、[動物園](#)、[テーマパーク](#)、[野球場](#)などで

インタビューを敢行。パーソナリティ・箱崎アナウンサーの明るいトーンの呼びかけは不安を煽ることなく、暑さを体感するリスナー全員を「アツイ仲間」として迎え入れ、前向きに動き出すきっかけをつくる。そのポジティブな切り口の継続的な発信は、今後さらに多くの人を巻き込んでいこう。(番組詳細)

<シリーズ賞：NHK放送文化研究所 気候危機にメディアはどう向き合うべきか>

国内外で気候変動がどう報じられているかを丁寧に取材した連載。連載では課題の現状と解決策を併せて伝える重要性を指摘するなど、気候変動報道を实践するヒントが詰まる。「[異常気象の最前線に立つ気象予報士からの警鐘](#)」「[天気予報を気候リテラシーの出発点に](#)」では、これまであまり語られなかった日々の天気と気候変動を関連づけた発信を取材。[地域メディアを取材した記事](#)では地域の変化に根ざした報道を、[アメリカ選挙の取材](#)では有権者の関心を集める報道の工夫や課題を紹介するなど幅広い分野に渡る。この連載で「ソリューションジャーナリズム」を体現しており、メディア自らが葛藤と向き合い発信する姿は多くのメディア関係者の背中を押していく。(連載一覧)

<地域メディア賞：福岡放送>

テレビ局初の「[再エネ100宣言 RE Action](#)」に加盟し、本館/別館の使用電力を全て再生可能エネルギーに切り替えた。会社の編成変更により現在は脱退したが、現在も再エネの地産地消にも貢献しており、引き続き全社100%再エネ化を目指す。「[FBSブルーカーボン・アマモ場づくり](#)」では実践事例を番組に活かす。SDGsオリジナルキャラクター「[パカチンガー](#)」や、JR九州/西日本プラント工業/福岡中央銀行など地元企業と連携した地域清掃活動「[運拾い](#)」も広がりを見せます。地元の取組みにアンテナをはり、先陣を切って課題解決に貢献する姿勢が頼もしい。メディアの力で人と人を繋ぎ、地域活性化の種をまく。地方局ならではのユニークな取組みに、これからも期待したい。

<ソリューション賞：読売新聞社>

温暖化ガス削減、森林保護・リサイクル、報道を通じた促進など「脱炭素プロジェクト」として様々な気候変動対策を展開されています。2013年より植樹事業「読売の森」、2020年より独自の古紙回収システム「クローズド・ループ」をスタート。群馬/埼玉/愛知の各工場で太陽光発電システムを導入し、発電した電力は新聞印刷などに活用。輸送面ではEVトラックを導入し、用紙輸送を鉄道コンテナに切り替える「モーダルシフト」も開始した。また、新聞梱包資材を新たに開発し、脱プラに貢献するなど、サプライチェーン全体で脱炭素を目指す姿勢が光る。発信する立場であるメディアが、自ら課題解決の当事者となる。その継続的な取組みに、心からの敬意を表したい。(読売新聞の取組み一覧)

<Media is Hope AWARD 2025 に際して主催者からのコメント>

近年のAWARDでは、テレビ・新聞・ラジオといったマスメディアからの受賞者に加え、映画・SNSコンテンツ・漫画といったエンターテインメント領域からの受賞が続いており、気候変動を伝える表現の幅が着実に広がっていると感じさせます。記事の発信手法においても、グラフィックや図解・写真を駆使して「見て、体感する」ことを意識した作品が増えており、今年初めて「データビジュアルイズ賞」を設けたこともその流れを反映しています。また、地域に密着し独自の報道を展開する地方メディアの活動にも光を当てたいという想いから、新たに「地域メディア賞」も加わりました。

SNS上での気候変動をめぐるフェイク・誤情報の拡散が社会問題として浮き彫りになった2025年。根拠のない言説が急速に広まる現象が度々見られる中、科学的根拠に基づいて丁寧に事実を検証し、誤情報への注意を呼びかけるファクトチェックに基づいた発信も存在感を放ちました。情報が氾濫するSNS時代だからこそ、マスメディアが持つ取材力・調査力・発信力の価値は改めて問われています。

【Media is Hope AWARD 過去受賞者一覧】

2023上半期：個人賞 メ〜テレ 島津咲苗氏、媒体賞 講談社FRaU

2023下半期：個人賞 テレビ朝日 山口豊氏、媒体賞 東京新聞

2023年間賞：個人賞 ハフポスト日本版 中田真弥氏 / 日刊工業新聞 松木喬氏、媒体賞 朝日新聞社、ソリューション賞 ハースト婦人画報社、ソーシャルメディア賞 露木しいな氏 / RICE MEDIA、ワールド賞 毎日新聞 八田浩輔氏、作品賞 映画「Dance with the Issue」 ([2023 下半期/年間 授賞式の様子](#))

2024上半期：個人賞 TBSテレビ 川上敬二郎氏 / ライター・エディター 大庭美菜氏、媒体賞 北海道新聞社 / フジテレビ、メディア貢献賞 ソーシャルカンパニー 市川裕康氏 ([2024 上半期 授賞式の様子](#))

2024下半期：個人賞 ハフポスト日本版 富田すみれ子氏 / 日本経済新聞社 松添亮甫氏、媒体賞 J-WAVE / 日本農業新聞
2024年間賞：個人賞 朝日新聞社 市野塊氏、媒体賞 ウェザーニュース / オルタナ、特別賞 気候危機に関する気象予報士・気象キャスター共同声明、シリーズ継続賞 BS朝日 地球クライシス、ソリューション賞 中海テレビ放送、調査報道賞 NHKスペシャル 調査報道 新世紀File7 気候変動対策の“死角”、ソリューションジャーナリズム賞 IDEAS FOR GOOD ([2024 下半期/年間 授賞式の様子](#))

2025年上半期：作品賞 映画「温帯の君へ」 / 演劇「KYOTO」 ([「みんなでつくろう再エネの日！2025」での授賞式の様子](#))
殿堂入り：共同通信社 井田徹治氏 / 朝日新聞社 石井徹氏 / NHKエンタープライズ 堅達京子氏 / Covering Climate Now マーク・ハーツガード氏 ([殿堂入り 授賞式の様子](#))

<<気候変動メディアシンポジウム2026 について>>

メディア関係者を中心に、オーディエンスや企業、専門家ら多様な主体とともに、気候変動報道の先進事例を共有し、「気候変動報道を継続する仕組みづくり」に向けたディスカッションを繰り広げます。▶[気候変動メディアシンポジウム2026 リリース \(PR TIMES\)](#)

特に今回は、気候変動やエネルギー問題といった社会危機を前に、課題解決型のメディアの在り方、AI台頭時代のメディアの役割、ステークホルダーである視聴者やスポンサーとの新たな関係づくりについて議論します。会場での議論やネットワーキングを通して、気候変動報道の更なる進化、実践継続のためのシステム構築を目指します。

■ 日時：2026年4月16日(木) 13:00~16:00 (懇親会 16:00~17:00)

■ 場所：国際連合大学 2F Reception Hall (現地対面のみの開催)

住所：東京都渋谷区神宮前 5-53-70

■ 主催：一般社団法人Media is Hope ■ 後援：国連広報センター

■ 一般社団法人Media is Hope (HP：<http://media-is-hope.org>)

気候変動を解決できる社会を実現するために、気候変動報道強化に繋がるサポートを行う非営利組織。「メディアをつくる側もえらぶ側もお互いに責任を持ち、公平で公正かつ自由なメディアと持続可能な社会の構築」をビジョンに掲げ、気候変動の本質的な解決を目指して、メディアや生活者、企業やあらゆるステークホルダーが共創関係を築く架け橋となる。

メディア関係者や国連などの国際機関、専門家や実践者、市民や若者と共に、気候変動解決に求められる報道の在り方を議論する【[気候変動メディアシンポジウム](#)】や、環境省後援【[みんなでつくろう再エネの日!](#)】を主催するなど、各ステークホルダーが繋がり共創する場を提供。

■ 問合せ：[contact\[at\]media-is-hope.org](mailto:contact[at]media-is-hope.org)<https://media-is-hope.org/news/3243/>

一般社団法人Media is Hope 共同代表 西田吉蔵/名取由佳 宛